

2005年10月20日(木) 第31回研究会

発表者： 白井佐知子 氏 (東京外国語大学外国語学部教授)

発表題目：

『『歴史的アーカイブズの多国間比較 東アジアにおける文書資料と家族・商業および社会』
国際シンポジウム 於上海 について』

本年8月25日(木)・26日(金)の2日間にわたり、東京外国語大学21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」[在地固有文書班]は、人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系「東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究プロジェクト」、及び復旦大学中国歴史地理研究所と共に、国際シンポジウム『歴史的アーカイブズの多国間比較 東アジアにおける文書資料と家族・商業および社会』を、上海の宝隆飯店において開催した。また、当シンポジウム参加者は28日から、近代中国における歴史文化の「五大発見」の一つとされる「徽州文書」の故郷である安徽省黄山市を訪問し、8月30日には、安徽省黄山市博物館において「徽州文書」についての談話会が開催され、同博物館が所蔵する「徽州文書」についての説明を受けると同時に「徽州文書」の一部を手にとって閲覧した。

本研究会においては、上記の国際シンポジウムにおける発表概要とそれに対する質疑応答の内容、及び談話会の概容について報告された。なお、国際シンポジウム及び談話会の具体的なプログラムは、以下の通りである。

・シンポジウム

シンポジウムの報告全般

シンポジウム各報告

8月25日(木)

- 1, 翟 屯建 「徽州文書の発見、収集、整理と徽州文書の価値について」
- 2, 王 宏 「盛宣懷档案概述」
- 3, 蔵持 重裕 「日本中世の商業関係文書について」
- 4, 王 振忠 「清代における徽州のある小農家庭の生活状況 『天字号鬮書』に対する考察」
- 5, 吉田 ゆり子 「武士への憧れ 「系図」と「家伝記」

8月26日(金)

- 6, 渡辺 浩一 「日本近世都市の法令伝達 掲げる・写す・印刷する」
- 7, 唐 力行 「清代蘇州の社会管理 蘇州の碑刻に対する考察」
- 8, 高橋 実 「1840年代在郷における商い金紛争とその特質 - 商い帳簿認識と訴訟工作 - 」
- 9, 阿 風 「明清徽州訴訟文書の来源、分類とその史料としての価値」
- 10, コメント・・・(1)范金民
(2)オゼル=エルゲンチ
(3)金炫栄

・黄山市博物館での談話会

8月30日(火)

館長 章望南氏ら3名と黄山市博物館と「徽州文書」について談話会